

4-21 伊豆半島におけるラドン観測 (VIII)

Radon Observations in the Izu Peninsula (VIII)

東京大学 理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

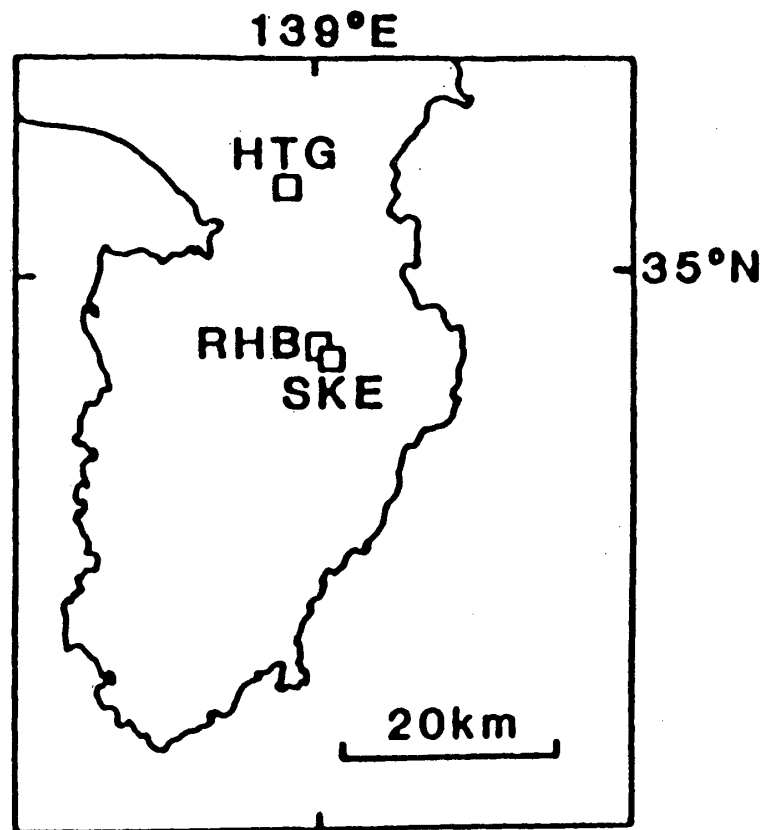
前報¹⁾にひきつづき、伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1988年11月～1989年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す中伊豆第1 (SKE)、中伊豆第2 (RHB) の2地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。なお、SKEは5月にラドン連続測定装置を新しい装置に交換した。

SKEでは昨年にひきつづき、年間を通じてラドン濃度が極めて一定である。7月初旬から観測されるRHBのラドン濃度の増加は、伊東沖群発地震-海底噴火活動に関連する可能性がある。

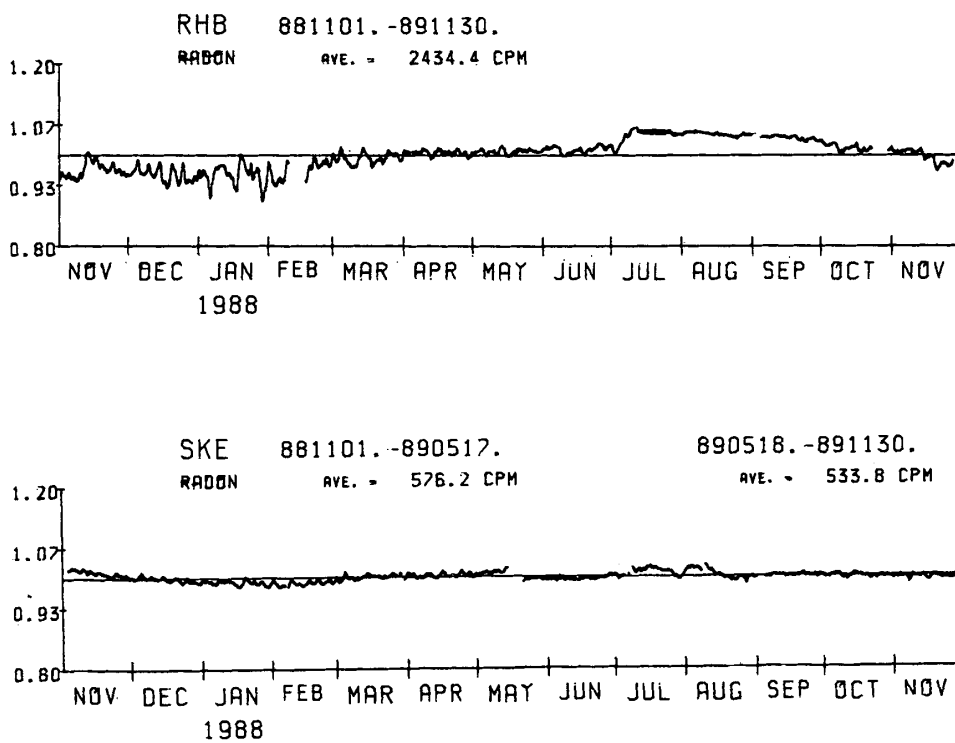
参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：伊豆半島におけるラドン観測 (VII)，連絡会報，41 (1989)，314-315.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula (SKE: Nakaizu-1, RHB: Nakaizu-2).



第2図 SKE (中伊豆第1), RHB (中伊豆第2) における地下水中のラドン濃度の変化
(1988年11月～1989年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SKE (Nakaizu-1) and RHB (Nakaizu-2) (November 1988 – November 1989).